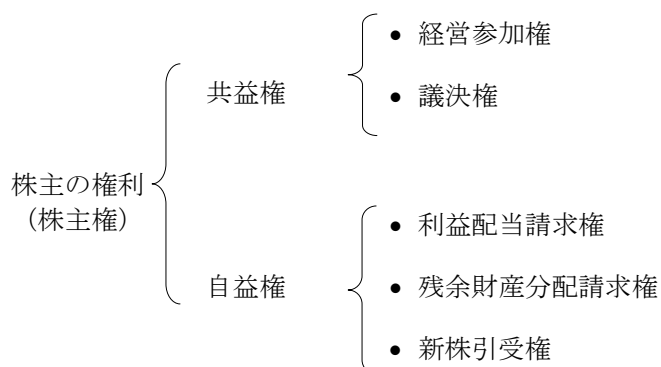


第 12 章 株式の基礎

1. 株主の権利と株式の種類

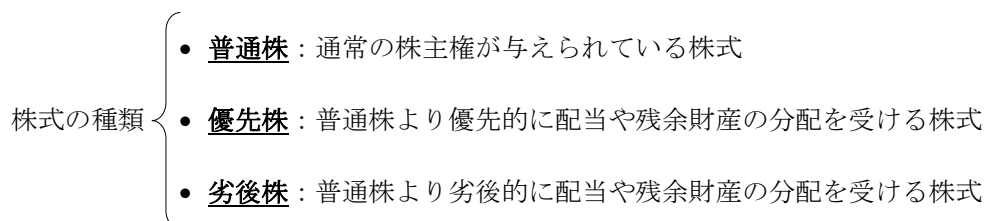
1.1 株主の権利

株式は、その所有者である株主の権利を表した有価証券である。そして株主に付与される権利を**株主権**という。株主権には、株主全体の利害に影響を及ぼす**共益権**と、私的利益をあらわす**自益権**がある。



1.2 株式の種類

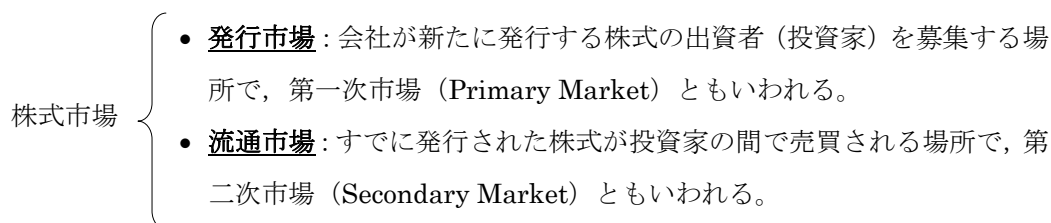
株式は付与されている権利の内容によって、次のように分類される。



2. 株式市場

2.1 取引形態区分

株式の取引を行う場のことを株式市場という。株式市場は、取引形態により、**発行市場**と**流通市場**の二つに分類される。



2.2 取引場所区分

現在我が国には、六証券市場と五新興企業市場がある。

	<u>証券市場</u>	<u>新興企業市場</u>
株式市場 {	● 東京証券取引所	マザーズ
	● 大阪証券取引所	ヘラクレス
	● 名古屋証券取引所	セントレックス
	● 札幌証券取引所	アンビシャス
	● 福岡証券取引所	Q-board
	● ジャスダック証券取引所 (2004年12月に証券取引所免許を取得)	

3. 増資

会社は設立にさいして、定款に発行予定株式数を定める。これを授権株式総数といい、設立時にはその 1/4 以上を発行しなければならない。

会社設立後は、取締役会の決議によって、未発行株式の範囲内で新たに株式を発行して資本金を増加することができ、これを**増資**という。増資には、投資家から払込金をとって新株を発行する**有償増資**と、会社の他の資産を振り替えて新株を発行する**無償増資**がある。

3.1 有償増資

有償増資は新株の募集方法によって次の三つに分類される。

有償増資 {	● 株主割当 : 現在の株主に新株引受権を優先的に与える方法
	● 第三者割当 : 株主以外の第三者に新株引受権を与える方法 (通常, 役員・取引先・銀行などに交付する)
	● 公募 : 新株の応募者を一般の投資家から募集する方法

3.2 無償増資

無償増資の方法には、無償交付、株式配当、株式分割があるが、1990年の商法改正で全て株式分割という概念で統一されたので、全て「株式分割」とよばれるようになった。さらに、2006年5月に施行された会社法では、「**株式無償割当**」という制度が創設された。これによって、従来は不可能であった異なる種類の株式（普通株と優先株）の割当が可能になった。

- 無償増資
- 無償交付 : 法定準備金を資本金に組入れて新株を発行する方法
 - 株式配当 : 利益留保分を資本金に組入れて新株を発行する方法
 - 株式分割 : 株式を 1 株から 2 株というように単純に分割することによって新株を発行する方法で、資本金は増加しない。

4. 株式の投資収益率

4.1 株式の投資収益率

株式の投資収益率は、配当から得られるインカム・ゲインと株価の値上がり益であるキャピタル・ゲインを投資金額で割ったものである。

(投資時点から 1 年後に配当を受取り、直ちに売却した場合)

$$r = \frac{D_1}{P_0} + \frac{P_1 - P_0}{P_0}$$

= インカム・ゲイン + キャピタル・ゲイン

r : 株式投資収益率
 P_0 : 投資時点の株価
 P_1 : 売却時点の株価
 D_1 : 配当額 (インカム・ゲイン)

4.2 株式分割のある投資収益率

投資期間中に株式分割が行われた場合、投資収益率の計算には売却時の株数が増加していることを考慮しなければならない

(投資時点から 1 年後に配当受取りと株式分割があり、その後直ちに売却した場合)

$$r = \frac{D_1}{P_0} + \frac{(1+a)P_1 - P_0}{P_0}$$

a : 1 株に対する新株の割当比率

5. 株式の投資尺度

5.1 株価収益率 (PER: Price-Earnings Ratio)

PER とは、株価を一株当り純利益 (EPS: Earnings Per Share) で割った値であり、一般に、PER の低い銘柄ほど割安であり、高い銘柄ほど割高と判断される。

$$\text{PER} = \frac{\text{株価}}{\text{一株当り利益}}$$

5.2 株価純資産倍率 (PBR: Price-Book value Ratio)

PBR とは、株価を一株当り純資産 (BPS: Book value Per Share) で割った値であり、一般に、PBR の低い銘柄ほど割安であり、高い銘柄ほど割高と判断される。

$$\text{PBR} = \frac{\text{株価}}{\text{一株当り純資産}}$$

5.3 配当利回り

配当利回り とは、一株当りの配当を株価で割ったものであり、投資家の期待収益率の一部を表している。

$$\text{配当利回り} = \frac{\text{一株当り配当}}{\text{株価}}$$

5.4 益利回り

益利回り とは、一株当り利益 (EPS) を株価で割ったものであり、PER の逆数である。

$$\text{益利回り} = \frac{\text{EPS}}{\text{株価}} = \frac{1}{\text{PER}}$$

5.5 イールド・スプレッド

イールド・スプレッド とは、債券利回りと益利回りの差をとったものであり、株式相場の水準が長期国債と比較して割安なのか割高なのかを判断する指標として用いられる。通常、イールドスプレッドは正の値をとり、その値が小さくなるほど、株価の割安感が強くなるといわれている。

$$\text{イールド・スプレッド} = \text{長期国債利回り} - \text{益利回り}$$

5.6 トービンのq

トービンの q とは、1981 年にノーベル経済学賞を受賞したアメリカの経済学者 James Tobin が考案した指標で、企業の負債と資本を時価評価したものの合計を、資産を時価評価したもので割った比率である。

$$\text{トービンの } q = \frac{\text{発行済株式の時価総額} + \text{負債時価総額}}{\text{資産時価総額}}$$

一般に、($q < 1$: 株価割安, $q = 1$: 株価適正, $q > 1$: 株価割高) といえる。

[問題 6-1]

次の文章の () 内に入る適切な語句を、下記より選び記入しなさい。なお同じ語句を何度用いてもよい。

株式の所有者に対し付与される権利を (①) という。(①) には、(②) と (③) があり、(②) の主なものは (④) と経営参加権であり、(③) の主なものは (⑤) と残余財産分配請求権である

株式の種類には、主に、普通株、(⑥)、(⑦) がある。普通株とは、通常の株主権が与えられている株式のことをいい、大半の株式が普通株である。

(⑥) とは、配当の支払や残余財産の分配において、普通株より優先的に取り扱われる株式である。また (⑥) の多くには、株主の希望により、一定条件のもとで普通株へ転換できる転換権が与えられている。その反面、(⑥) には、通常、経営参加権が与えられていない。このように、株主総会において議決権を行使することのできない株式のことを、無議決権株式という。

(⑦) とは、配当の支払や残余財産の分配において、普通株より劣後的に取り扱われる株式であり、投資家にとって (⑧) な株式である。(⑦) は、会社に十分な利益があがっていない場合、普通株式を発行すると、既存の株主の配当が下がってしまう恐れがあるので、普通株主の保有者の利益を損なわずに、資金を調達する方法として考えられたものである。したがって、(⑦) は、主に経営者や発起人に対して発行される。

有利	償還株	共益権	利益配当請求権	株主権
優先株	自益権	不利	劣後株	額面株式

[問題 6-2]

次の文章の () 内に入る適切な語句を、下記より選び記入しなさい。なお同じ語句を何度用いてもよい。

(①) 市場は、会社が新たに発行する株券の出資者 (投資家) を募集する場所のことであり、(②) 市場は、すでに発行された株式が投資家の間で売買される場所のことである。

会社が資本を増やすことを (③) といい、投資家から払込金をとって新株を発行することを (④) 増資、会社の他の資産を振り替えて新株を発行することを (④) 増資という。

(③) 増資の募集方法には、(⑤), (⑥), (⑦) などの方法がある。(⑤) は、既存の株主の中から株主を募集する方法で、増資しても株主の構成に大きな変化が生じないことや、資金の調達が比較的確実であること等に利点がある。(⑥) は、発行会社と特別の関係にある第三者に新株の引受権を与える方法である。(⑦) は、新株の応募者を広く一般の投資家から募集する方法で、発行条件がすべて均等であることや、発行価格が著しく不公平になってはいけないという商法規定がある。

減資	公募	株式分割	無償	流通
第三者割当	発行	有償	増資	株主割当

[問題 6-3]

以下の設問における投資収益率を計算しなさい。

1. A社の株式 1,000 株を 1 株 200 円で購入し、その 1 年後に 1 株 10 円の配当を受けた後、直ちに 1 株 220 円で全株売却した。

_____ %

2. B社の株式 2,000 株を 1 株 300 円で購入し、その 1 年後に 1 株 15 円の配当を受けた直後に 1 株につき 0.5 株の株式分割がなされた。その後直ちに 1 株 220 円で全株売却した。

_____ %

[問題 6-4]

次の財務データに基づいて以下の比率を計算しなさい。

	帳簿価額	時価
資産	400 億円	500 億円
負債	200 億円	200 億円
当期純利益	10 億円	
支払配当総額	6 億円	
株価	400 円	
発行済株式数	1 億株	
10 年物国債利回り	5.5%	

(1) PER を求めなさい。

_____ 倍

(2) PBR を求めなさい。

_____ 倍

(3) 配当利回りを求めなさい。

_____ %

(4) 益利回りを求めなさい。

_____ %

(5) イールド・スプレッドを求めなさい。

_____ %

(6) トービンの q レシオを求めなさい。
